

平成 30 年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

## 1 法人の概要

### (1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神としてイエス・キリストの人生観・世界観・教育観に基づくキリスト教の理念を根本として設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会は世界宣教を使命としている修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長マリー・ムスCHED・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951年（昭和25年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観を土台とする全人教育の場の実現を目ざしています。

### (2) 学校法人の沿革

昭和 22 年	神戸市生田区にあった高等聖家族女学校（旧制）の経営を引き継ぐ。この学校が前身であり、ここから本学院の歴史がはじまる。
昭和 26 年	新学校教育法に則り、学校法人 海星女子学院が設立認可され、六甲山麓の現在地（神戸市灘区青谷町）に小学校・中学校・高等学校を開設。
昭和 27 年	海星女子学院マリア幼稚園認可。
昭和 30 年	短期大学英語科開設。
昭和 40 年	大学文学部開設、英文学科・仏文学科設置。
昭和 41 年	短期大学英語科が大学英文学科に発展解消され、廃止。
平成 2 年	小学校・中学校・高等学校講堂棟を改築。
平成 11 年	短期大学の募集を停止し、その定員を大学に移す。また、学校法人創立 50 周年記念事業として大学図書館棟を新築。
平成 16 年	大学の学科を国際英語メディア学科及び心理こども学科に改組。
平成 20 年	大学を英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科及び心理こども学科の 3 学科に改編し、学部名を現代人間学部に変更。
平成 24 年	大学 観光ホスピタリティ学科を募集停止。
平成 25 年	中高 南館の耐震改修及び内部全面改修と西館を改築。
平成 26 年	大学 英語キャリア学科を英語観光学科に、名称変更
平成 28 年	幼稚園 園舎を全面改築。
平成 30 年	中高 食堂・ロッカー棟を改築。

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)	平成 20 年 4 月に学科を改編し、文学部から現代人間学部へ学部名称を変更
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)	—
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(平成 30 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	354
神戸海星女子学院高等学校	150	450	425
神戸海星女子学院中学校	150	450	442
神戸海星女子学院小学校	50	300	294
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	280

(5) 教職員の概要

(平成 30 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教員	本務	0	21	21	23	18	18	101
	兼務	0	37	12	17	9	13	88
職員	本務	4	14	4	3	2	3	30
	兼務	0	0	1	1	1	2	5

(6) 役員 の 概 要

定員数 理事 8名、監事 2名

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	森田 和子	常 勤	小学校
理 事	小野 礼子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	澤井 育子	常 勤	幼稚園長
理 事	林 紘史	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
理 事	池長 潤	非常勤	
理 事	コリンズ・ダニエル	非常勤	
監 事	小原 義雄	非常勤	
監 事	荒井 俊朗	非常勤	

【参考】(令和元年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	小野 礼子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	澤井 育子	常 勤	幼稚園長
理 事	林 紘史	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	小原 義雄	非常勤	
監 事	荒井 俊朗	非常勤	

(7) 評議員の概要

定員数 17 名

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	森田 和子	小学校長
大岸 啓子	大学教授	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
蓮池 知恵子	中・高教諭	山田 喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	池長 潤	
石倉 哲也	小学校教頭	林 紘史	
横田 和男	幼小中高 事務長	コリンズ・ダニエル	
小野 礼子	大学長		

【参考】(令和元年 5 月 1 日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
大岸 啓子	大学教授	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カトリックセンター長	山田 喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	林 紘史	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
横田 和男	幼小中高 事務長	芝山 豊	
小野 礼子	大学長		

## 2 事業の概要

### (1) 神戸海星女子学院大学

#### 1. 学生募集と広報活動

##### ① 学生募集

2019（平成 31）年度入学者選抜試験の結果、2019 年度の入学者数は、英語観光学科 74 名（編入学生 1 名を含む）、心理こども学科 36 名、合計 110 名であった。1 年次生では、英語観光学科 73 名（入学定員 45 名）、心理こども学科 36 名（同 50 名）、合計 109 名（同 95 名）、定員充足率は 114.7%（英語観光学科 162.2%、心理こども学科 72.0%）であった。前年度は、編入学生 1 名（英語観光学科）を除き、英語観光学科 58 名、心理こども学科 39 名、合計 97 名、定員充足率 102.1%（英語観光学科 128.9%、心理こども学科 78.0%）で、三年連続して定員を上回る入学生を確保することができた。また、定員充足率も前年度より 12.6%上昇するという結果となった。ただし、心理こども学科に関しては、三年連続して定員を下回るという課題が残った。入学者が受験した入試をみると、英語観光学科の入学生 73 名（編入学生 1 名を除く）のうち、41.1%にあたる 30 名は AO 入試（13 名）、指定校推薦（3 名）、公募推薦（14 名、このうち 4 名は最終日程である 3 月 23 日の D 日程を受験）による入学者、58.9%にあたる 43 名は一般入試（23 名）、センター入試（20 名）による入学者である。一方、心理こども学科の入学生 36 名のうち 80.6%にあたる 29 名が AO 入試（16 名）、指定校推薦（9 名）、公募推薦（4 名）による入学者で、一般入試及びセンター入試での入学者はそれぞれ 3 名、計 6 名で 16.7%に留まった。（残りの 1 名は留学生試験による入学者である。）

##### ② 広報活動

###### (ア) オープンキャンパス

オープンキャンパスは、8 回の個別相談型（ミニ）オープンキャンパスを含め、全 16 回（4 月、6 月各 1 回、7 月 3 回、8 月 4 回、9 月 1 回、10 月、11 月各 1 回、12 月 2 回、2 月、3 月各 1 回）開催した。来場者数は、高校生が 356 名、保護者が 223 名であった。前年度と比較すると高校生が 57 名、保護者が 44 名それぞれ増加した。

###### (イ) 高校訪問

専任教職員による高校訪問を 4 月、6 月、10 月、2 月に行った。4 月は入学者の出身高校のみの訪問で、6 月、10 月、2 月は、それぞれ 244 校（前年度 224 校）を、アドミッションセンター課員を中心に専任教職員 34 名で回った。

###### (ウ) 教員対象入試説明会

高校教員及び塾教員対象の入試説明会を 5 月 18 日（姫路：高校教員、塾・予備校）、22

日（本学：高校教員）、29日（本学：塾・予備校）、31日（大阪：高校教員、塾・予備校）の計4回行った。5月18日は8校、22日は15校、29日は5校、31日は10校、合計38校（前年度43校）が出席した。

#### （エ）出張授業・進学説明会

2018年度は合計147件（前年度106件）の出張授業及び進学説明会に参加した。分野別では、「大学別・進学説明会」64件（業者59件、高大連携5件）、「外国語・語学・国際関係」38件（業者32件、高大連携6件）、「観光学」7件（業者5件、高大連携2件）、「保育・幼児教育」13件（業者6件、高大連携7件）、「教員養成・教育」9件（業者9件）、「心理学」16件（業者13件、高大連携3件）であった。アドミッションセンター課員が中心となって担当したが、専任教員延べ49名及び6名の学生も担当した。

#### （オ）その他

土曜進学相談会を42回実施し、来学者数が24組（前年度14組）あった。また、平日も相談会への来学者が16組（前年度24組）あった。このほか、雑誌への記事掲載、大学案内パンフレット及びフライヤーの印刷、山陽電鉄ドア横ポスターの広告、神戸新聞「兵庫の大学へ行こう」企画への参加等を行った。さらに、12月から2019年3月にかけての志願者獲得のため、補正予算を使用して、フロムページ激励号フライヤーの印刷・発送、新聞・雑誌広告、twitter ターゲティング広告、Instagram ターゲティング広告（1～3月）、スマートフォンのGPS機能を利用したターゲティング広告を実施した。

## 2. 教育活動

### ① 英語観光学科

1年次生対象の「ホスピタリティ研修」を8月21日（火）に帝国ホテル大阪で行った。主な内容は、帝国ホテルの講師によるホスピタリティセミナー、ホテル内施設の見学、テーブルマナーと会食（フランス料理）であった。また、12月8日（土）10:00～12:00にアセンブリーホールで「Kaisei English Festival」を開催した。1～4年次生が英語でプレゼンテーション、留学報告、研究発表等を行った。2019年2月25日（月）～3月3日（日）には、6泊7日（機中1泊を含む）の日程でオーストラリアのケアンズ及びシドニーでの「海外ツーリズム研修」を実施し、1年次生5名、2年次生7名、4年次生3名、計15名が参加した。

### ② 心理こども学科

地域貢献子育て支援事業「母と子のふれあいひろば」を7月～12月にかけて月1回、全6回本学で実施した。4年次生延べ55名及び教員2名で行い、15組の親子が登録し、延べ144人が参加した。また、7月26日（木）には「幼児教育指導法」「初等音楽4」「保育内容の研究・健康」の連携授業として「たのしい遊びのプレゼント」と題した発表会をマ

リア幼稚園で行った。さらに、2 年次生を対象に、子どもを知る機会を持つこと、学ぶ意欲を高めることを目的として六甲ファミリーまつり（灘区まちづくり課）、灘秋祭り（灘区社会福祉協議会）、灘区子育てフェスタ（灘区役所こども家庭支援課）等、6 件のボランティア活動への参加を呼びかけ、2 年次生のほぼ全員がいずれかの活動に参加した。2019 年 2 月 6 日（水）の 15:30～18:00 には、神戸海星女子学院講堂で「海星☆音楽フェスティバル」を開催した。1～4 年次生が歌と合奏、劇、研究発表、連弾、合唱等を披露した。

### 3. 生涯教育、地域交流・貢献等

#### ① 生涯学習講座

2018 年度は、「英会話」（初級、中級）、「フランス語会話」（初級～準中級、中級）、「関西文化が育んだ文学」（春コース、秋コース）、「ハワイのフラとハワイアンソングで歌われた神話、歴史、スポット」の 7 講座を開講した。（「フランス語会話初級」及び「実践中国語」は、定員各 20 名に対し、受講希望者数が 10 名未満であったため不開講となった。）開講した 7 講座の受講者は合計 118 名であった。女性の受講者が全受講者の 92.4%（109 名）を占めたほか、年代別では 60 代が最も多く、全体の 39.8%（47 名）を占め、50 代 24.6%（29 名）、70 代 18.6%（22 名）、40 代 10.2%（12 名）と続いた。本学の卒業生は 16.9%（20 名）であった。

#### ② 小学校英語実践講座・免許状更新講習

8 月 22 日（水）～24 日（金）の 3 日間に渡り、「神戸海星サマースクール 2018 小学校英語実践講座 & 免許状更新講習」を本学で開催した。A「英語運用力講座」、B「授業運営法講座」、C「ICT・デジタルコンテンツ活用講座」の 3 つの講座（定員各 40 名）に対し、受講生は、それぞれ 39 名（免許更新講習 36 名）、40 名（同 35 名）、36 名（同 32 名）であった。

#### ③ 公開講座

第 30 回公開講座を大学祭開催日の 10 月 28 日（日）にアセンブリーホールで開催した。講座の題目は「心明るく生きるための食事学—長寿と子宝の島の事例から—」、講演者は兵庫栄養調理製菓専門学校講師で管理栄養士の平井美穂氏であった。来場者数は 27 名であった。

#### ④ 学生主体の地域交流・貢献

公益法人ひょうごツーリズム協会主催「あいたい兵庫キャンペーン」のイベント「ひょうごのまち歩き」に、英語観光学科の学生がボランティア観光ガイドとして参加した。11 月 6 日（火）、11 月 17 日（土）の「王子・青谷 灘区のまち歩きコース」は、11 月 6 日（火）は学生ガイド 15 名（箕野ゼミ）、教員 1 名、一般参加者 3 名、17 日（土）は、学生ガイド 5 名、教員 1 名、一般参加者 3 名、11 月 10 日（土）の「古代から近代そして未来へ、



兵庫の軌跡を辿る垂水まち歩きコース」は、学生ガイド 10 名（一尾ゼミ）、教員 1 名、一般参加者 15 名であった。また、英語観光学科及び心理こども学科の「キッズ・イングリッシュ」履修生による神戸市立住之江公民館での児童英語講座「子ども英語 A」（小学校 1・2・3 年生対象）、「子ども英語 B」（小学校 4・5・6 年生対象）が 5 月 12 日（土）～12 月 15 日（土）まで各 12 回開催された。学生数延べ 260 名、参加児童数は延べ 780 名であった。また、「1 日講座」を神戸市立南須磨公民館で 5 月 19 日（土）及び 6 月 16 日（土）に、住之江公民館で 7 月 1 日（日）及び 10 月 13 日（土）に実施した。参加学生数は延べ 36 名、参加児童数は延べ 120 名であった。さらに、「キッズ・イングリッシュ」の履修生と担当教員による英語活動の出前授業を本学の協定校である神戸市灘区の美野丘小学校で例年通り 5 月～12 月まで行った。12 月 2 日（日）にこべっこランド（神戸市総合児童センター）で行われた大学コンソーシアムひょうご神戸の「キッズフェスティバル 2018」には、英語観光学科及び心理こども学科の学生 13 名が参加した。来場者は 555 名であった。このほか、「灘ふれあい秋まつり」（灘ふれあい秋まつり実行委員会）に心理こども学科の 2 年次生及び 3 年次生 25 名が参加し、第 8 回灘区総合芸術祭（灘区まちづくり課）には、11 月 4 日（日）に音楽部、箏曲部、ピアノ、絵本クラブが参加した。

#### ⑤ 教員による講演・研修会等

専任教員による講演は、保護者対象教育相談後援会及び個別面接相談（神戸市教育相談指導室）、神戸文学館企画展記念講演（神戸文学館）、こうべ生涯学習カレッジ（神戸市生涯学習センター）、宝塚市市民カレッジ 文学講座（宝塚市）、幼児期の特別支援教育（明石教育センター）等が行われた。また、研修会は、人権講演会明石市特別支援教育担当者研修会（明石市教育委員会）のほか、明石市教育委員会による幼稚園園内研修会が明石市立江井島幼稚園、藤江幼稚園、錦が丘幼稚園等で開催された。

### 4. グローバル人材育成に向けた取組

#### ① 語学留学

語学留学には英語観光学科の 2 年次生 10 名、3 年次生 2 名、4 年次生 1 名、合計 13 名が参加した。内訳は、トリニティ・ウェスタン大学への短期留学が 2 名（4 年次生 1 名、2 年次生 1 名）、中期留学は、カナダのオカナガン・カレッジ 9 名（3 年次生 1 名、2 年次生 8 名）及びオーストラリアのクィーンズランド大学 2 名（2 年次生 1 名、3 年次生 1 名）であった。短期留学に参加した学生には 4 単位、中期留学に参加した学生には 14 単位又は 15 単位が認定された。

#### ② 交換留学

韓国の霊山大学に英語観光学科 2 年次生 3 名が交換留学生として秋学期に留学した。3 名には 14 単位又は 15 単位が認定された。

## 5. キリスト教関連行事

### ① 新入生オリエンテーション 2、キリスト教研修 I、II

5月11日（金）の大学行事日に4年次生を除く全学生を対象にしたキリスト教研修を3か所で一斉に実施した。「新入生オリエンテーション2」では、大塚国際美術館を訪問し、2年次生対象の「キリスト教研修I」では、カトリック夙川教会で聖母マリアについて講話と歌を通して学び、3年次生対象の「キリスト教研修II」では、神戸布引ハーブ園の森のホールでアシジの聖フランシスコについて講話とワークを通して学んだ。

### ② 4年次研修

4年次生対象のキリスト教研修を10月19日（金）～20日（土）に兵庫県立淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路において1泊2日で行った。2018年度のテーマは「女性の生き方—いのち、生きる、いつくしむ グローバルに考え、ローカルに行動する」であった。

### ③ 学生クリスマスミサ、クリスマスキャロル

12月20日（木）の大学行事日に1年次生対象の学生クリスマスミサ（司式：ジェラール・グイノ師）を聖堂で行った。ミサ後はクリスマスキャロルを行った。

### ④ 卒業年次感謝ミサ

卒業を二日後に控えた4年次生を対象にした卒業年次感謝ミサ（司式：アルフレド・セゴビア師）を2019年3月14日（木）に聖堂で行った。

## 6. 大学改革関連

### ① 自己点検・評価における外部評価

2019年3月18日（月）に、神戸市灘区長 廣瀬万希子氏、神戸市水道局事業部東部センター所長 毛利憲士氏、ウィッシュインターナショナル株式会社販売部長 酒井新一郎氏を外部評価委員として本学に招き、大学改革運営会議構成員7名と外部評価委員会を開催した。委員会では、「2018（平成30）年度 自己点検・評価報告書」に基づき、各委員会等の自己点検・評価の取組について報告を行った後、外部評価委員から意見等の提供を受けた。

### ② FD・SDの取組

FD・SD委員会主催の「自己点検・評価報告研修会」を6月20日（水）の教授会後に行った。専任教職員（ネイティブ教員1名を除く）29名が出席、出席率は96.7%であった。また、9月19日（水）10:00～12:00に専任教職員を対象にSD研修会を行った。講師は心サポートあおいくま代表梶原由美氏、テーマは「人間関係と感情のコントロール—大

学教職員のためのアンガーマネジメント」であった。FD 研修会は、2019 年 2 月 13 日（水）10:00～11:30 に「グローバル化時代における人材の育成とは」というテーマで行った。講師は現兵庫県教育委員会人権教育課長、前文部科学省初等中等局国際教育専門官の松村好子氏であった。出席者は専任教員（ネイティブ教員 1 名を除く）15 名、出席率は 75%であった。また、3 月 6 日（水）に第 2 回 SD 研修会「人間関係と感情のコントロール―Part 2 応用編―」を行った。講師は 9 月 19 日開催の SD 研修会でも講師を務めた梶原由美氏であった。専任教職員等計 28 名が出席し、出席率は 75.7%であった。

### ③ 教員評価

英語観光学科及び心理こども学科の教員はそれぞれの学科主任宛に、共通科目の教員は、共通科目主任宛に人事考課表の担当職務の具体的遂行結果及びそれに対する本人評価について記載したものを提出した。その後、学科主任及び共通科目主任が、所属教員と個別面談を実施し、当該教員に対して下した評価を学長に提出した。学長は各主任との面談の後、学長の評価結果を理事長に提出し、理事長が学長との面談の後、最終決裁を行った。

### ④ 高大連携

2018 年 4 月 1 日付で兵庫県立西宮香風高等学校と、6 月 1 日付で神戸野田高等学校と協定を締結した。これで本学の協定校は 9 校となった。

## 7. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学研究紀要』第 57 号及び『神戸海星女子学院大学教育研究紀要』第 2 号を 2019 年 2 月に発行した。また、『言語文化研究』第 3 号（神戸海星女子学院大学言語文化研究所）を 3 月に発行した。

## 8. その他

### ① 保護者会

4 月 2 日（月）の入学式後に、新入生の保護者を対象とした保護者会を聖堂で開催し、本学の建学の精神と教育理念、キリスト教研修、国際交流、奨学金制度、キャリア支援等についての説明を行った。

### ② 教員懇談会

4 月 7 日（土）に、専任教員及び非常勤講師による教員懇談会を本学で開催し、本学の教育方針等を確認した後、昼食会で専任教員と非常勤講師との交流を図った。

### ③ 教育懇談会・後援会総会

在学生の保護者・保証人を対象にした教育懇談会・後援会総会を 6 月 16 日（土）の午後

表（ハワイホームステイプログラム）を行った。保護者 41 名、学生 12 名、計 53 名が出席した。後援会総会では、2017 年度事業報告、2018 年度の事業計画及び役員選出等が行われた。引き続き、保護者の希望者と教員との個人面談を実施した。

## (2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

### 1. 中学校生徒募集と広報活動について

#### ① 中学校生徒募集

2019年度の入試は、A日程を4教科型と3教科型(算・国・理)の選択制を導入し、3教科受験を可能にした。また、面接を廃止し、それに伴い調査書の提出も不要とした。これらの入試方式の変更により、受験生の負担が軽減され受験しやすくなった。結果として出願者数はA日程167名、B日程119名となり、全体で昨年比約30%増となったが、一方で入学意思のない受験生の「試し受験」が増加し、A日程において予想以上に多くの辞退者(12名)が出た。最終的な2019年度の入学者数は142名である。

#### ② 広報活動

2018年度より教員による塾への訪問をスタートさせた。入試方式変更の伝達を初めとして、本校での様々な取組の説明、ポスターの配布等多くの教員の協力を得て情報の伝達と塾とのつながり強化に力を注いだ。また、校外の相談会や私学連合会主催、業者主催の合同説明会、塾主催の説明会等に積極的に参加した。一方、校内では従来通り学校説明会を2回、オープンスクールを1回実施、学院祭および体育祭を学校見学者の小学生と保護者に開放した。総じて、学校の内外において今まで以上に意欲的に情報の発信を行った。外部メディアを利用した広報は、受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。また、近隣の女子校との共同企画である「神戸市東部の女子校」(本校、甲南女子中学校、親和中学校、松蔭中学校)による「4校合同説明会」を3月31日「うはらホール」(住吉)に於いて開催した。日曜日ということもあり、昨年よりも多くの来場者があった。広報の宣伝領域に関しては、加古川や姫路などの西方面や大阪豊中方面にまで活動範囲を広げた。

### 2. 学校納付金等について

2018年度の授業料に関しては、中学1年生から中学3年生まで66万円、高校生は1年から3年生まで経過措置のため年額63万6000円であった。教材費預かり金については、2018年度卒業生は残額(2,338円)が生じたため、事前に書面で通知の上、保護者に返金した。また積立金に関しても、入学時に予定していたフランスへの修学旅行を中止し、九州方面に変更したため、44,582円の余剰金が発生、先述の教材費残額と共に保護者に事前通知の上返金した。

### 3. 教育活動について

#### ① 学期早期授業開始

新学期の早期開始により、1 学期の授業日数を確保するとともに各定期試験間の授業時間数を均等化することを目的に、2015 年度より 1 学期の始業式を 4 月初めに実施しているが、2018 年度もその流れを踏襲し、4 月 3 日高校入学式、中・高始業式（4 日入学式）とした。

## ② 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」ことと、「生徒の希望する進路の実現」を 2 つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中学 3 年の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

## ③ 数学、英語での習熟度別授業の実施と成績不振者対策

習熟度の差が大きい数学と英語について、中 3～高 2 の学年で、習熟度別に授業クラスを編成し、生徒個人の学力に見合った効果的な授業を実施した。また中学生に関しては、定期考査ごとに、成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。

## ④ 学級編成について

各学年のクラス数については、2011 年度に中学校 4 クラス化が完成以降、変更はしていない。設備、教員など諸事情を考え、2018 年度も中学 4 クラス、高校 3 クラスの編成とした。

## ⑤ 特別活動、宿泊行事

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕的活動を行い、心身の健全な発達を図った。中学 1 年生は、6 月に「イングランドの丘」（南あわじ市）への遠足を実施した。11 月には（財）神戸市民福祉振興協会「しあわせの村」での 1 日福祉体験学習を 2 クラスずつ 2 回に分けて行った。中学 2 年生は、体験合宿を 6 月に「休暇村蒜山高原」で実施した。また、青陽東養護学校との交流を 2 月に本校で行った（本校生のインフルエンザ感染者多数の為 1 月実施予定が 2 月に延期）。受け入れは 6 回目である。養護学校との交流では、昨年度の反省を生かし、概ね順調にプログラムを消化、双方にとって実り多き交流となった。中学 3 年生で行っている 1 泊 2 日の異文化理解合宿に関しては、昨年実施した神戸セミナーハウスの問題点が指摘されたため、場所を変更し、大阪南港にある「大阪アカデミア」で行った。移動時間が短く、宿舎に関しても比較的好評で多くの問題点が解消された。高校 1 年では 3 学期に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。高校 3 年では 5 月に「ユニトピア篠山」にて 1 泊 2 日の静修合宿を実施した。また、中 1～高 2 の各学年の静修は例年通り 3 学期に校内で行った。

#### ⑥ 高Ⅱ修学旅行

高Ⅱの修学旅行については、フランス同時テロ事件（2015年）後の2年間、安全面を考慮して行先を国内（長崎方面）に変更していたが、2018年度はヨーロッパ及びフランス国内の情勢安定化のため、フランスへの修学旅行を再開した。大過なく無事に、楽しく旅行を終えることができた。生徒にとって極めて有意義な旅行であった。

#### ⑦ 海外研修

オーストラリアとの交換プログラムについては、2018年度に関しては、セント・クレア校への訪問は予定通り実施できたが、相手校の事情によりサン・クレメンテ、セント・メアリー両校からの訪問が中止された（今後の交流も恒久的中止が確定）。オーストラリアとの交換プログラムに代わる新たなプログラムとして、中学3年生と高校1年生対象に「イギリス語学研修」（行先はイギリスのチェスター）を計画した。該当学年（2018年度中学2年及び中学3年）の生徒・保護者に説明会を実施して参加希望者を募集、応募者多数のなから最終的に30名を決定した。2018年度は、サン・クレメンテ、セント・メアリー両校からの訪問が中止されたために、従前の受け入れ交流が出来なくなった。当該学年である高1学年と国際教育委員会が協力して、それに代わる代替プラン「International Weeks」を企画し、9月下旬～11月下旬の土曜（午前半日）やLHR等を使って実施した。神戸北野町にあるジャイナ教・イスラム教寺院への訪問、フランス留学生との交流、JICA講師によるアジア・アフリカ・中南米に関する講演会、神戸大学留学生との交流などバラエティに富む国際理解・交流プログラムとなった。

### 4. 学校評価について

#### ① 自己評価

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。（資料1）評価する項目は昨年と同じである。各項目の評価には若干の変動はあるが、全体として大きな変化は見られなかった。学校評価の結果は4月の保護者会で保護者に印刷物で配布して周知を図った。

#### （資料1） 2018年度 学校評価

##### I 評価項目と評価の方法

##### （1）評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

##### （2）評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

## II 評価結果

評価項目	評価
A 教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	4. 0
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	4. 2
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	3. 9
④目標とした内容が定着しているか	3. 8
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	4. 0
B 校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	3. 9
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3. 8
C 担任業務	
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	3. 9
②保護者との連携がとれているか	4. 1
③学年内の連携がとれているか	4. 1
⑤教科担任との連絡がとれているか	3. 8



### (3) 神戸海星女子学院小学校

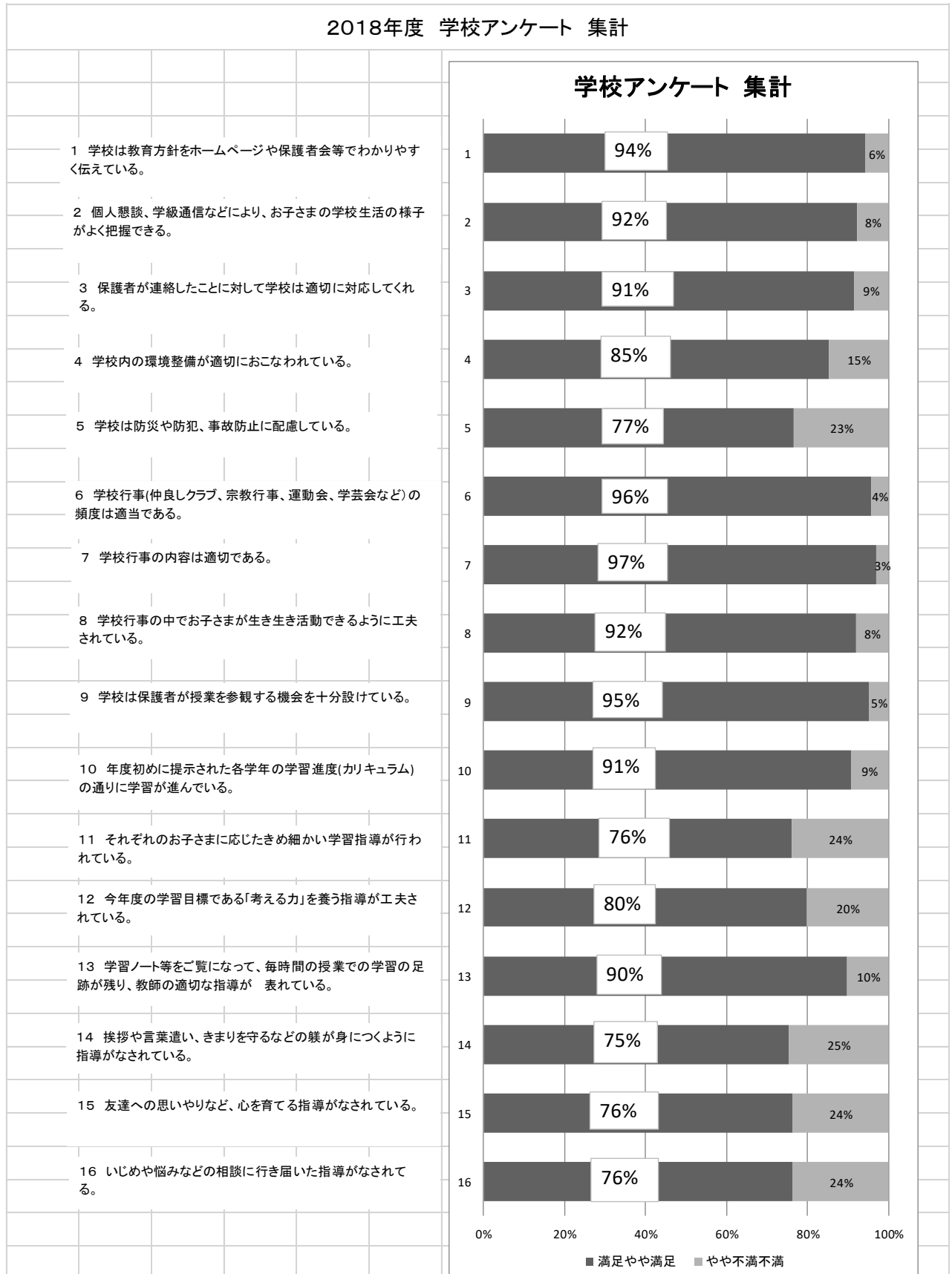
#### 1. 小学校広報活動と児童募集について

入学者確保のための広報活動の一つとして、幼児教室5か所(奨学社、ぷらいまりー、くま教育、しょうせい、チャイルドアイズ)を訪問し、2019年度入試に向けて海星小学校の特色や一貫教育について説明し、2018年度入試のペーパーテスト問題についての解説を教務が行った。4月に、第8回目の「関西私立小学校展」が阪急うめだ本店で行われ、本校のブースを訪れた方に、本校の特色や入試内容についての説明を行った。5月に、第6回の「兵庫県私立小学校連合会 学校相談会」が兵庫県の私学11校集まり、三宮センタープラザで行われた。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数2クラス制のよさなどの説明を行った。2019年2月に、第4回の「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が、甲南大学西宮キャンパスで行われた。2020年度入試に向けて、西宮、芦屋、神戸市などに住む年中以下の保護者の方が多数来場し、本校の特色や新しい取り組みなどの説明を行った。受験希望者に対して、学校での説明会を5月と6月の2回行った。第1回目の5月は、宗教行事である「マリア様をたたえる会」を見ていただき、そのあと説明会を行った。第2回目の6月は、1時間の授業公開と学校説明を行った。授業公開の間、2度目の取り組みとして園児に対して理科工作や図工などの活動を学校体験として行った。本校の特色である宗教行事や授業内容、児童の学習している様子、教室の様子などを実際に見ていただく良い機会になった。その他の広報活動としては、年度中にホームページの英語版を新たに開設し、公開した。また、学校紹介のパンフレットには、本年度の教育目標や各学年で定着させたい学習面、生活面の目標などを記載した。2019年入試は、本校では48名の募集に対し61名の志願者があり、50名の合格者を出した。2019年度の児童数は、1年生46名、2年生44名、3年生48名、4年生50名、5年生49名、6年生49名、計286名となった。

#### 2. 学校評価について

毎年3月に、保護者に対して無記名で学校評価に対するアンケートを実施している。238名の保護者から回答をいただいた。(回収率89%) (資料1) 2018年度は、「友達への思いやりなど心を育てる指導」について、昨年度と同様もっと指導してほしいという意見をいただいた。一人一人が伸び伸びと楽しく学校生活を送れるよう、「心の教育」に力を入れていきたい。生活指導の面では、「あいさつや言葉遣い、きまりを守る」について、学年に応じて、しつけの面でしっかり指導し、自覚と責任のある行動がとれる高学年に育てていきたい。学習面では、放課後補習について多数の意見をいただいた。自ら考え、一人一人の力を伸ばせる補習になるよう、よりよいものにしていきたい。保護者による学校アンケートは、海星の教育を考える良い機会になっている。

(資料1) 2018年度 学校アンケート



次に、自己評価についてである。年度末に学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。(資料 2) 結果については、職員会議で教員に周知を図った。

## (資料 2) 2018 年度 学校評価

### I 評価項目と評価の方法

#### (1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の 3 分野を学校運営における中核分野と捉え、それぞれについて評価項目を設定した。

#### (2) 評価の方法

評価は 5 段階で行い、達成度の最も高い評価を 5、最も低い評価を 1 とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

### II 評価結果

	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
①	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 8
②	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3. 7
③	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 9
④	設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	4. 2
⑤	個々の児童の学習内容が定着しているか。	3. 9
⑥	目標とした学習内容が定着しているか。	3. 6
⑦	同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3. 6
⑧	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	4. 1
⑨	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	4. 1
⑩	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 8
B	校務分掌	
①	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	4. 0
②	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3. 9
C	担任業務	
①	保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、信頼関係を築いているか。	4. 2
②	学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	4. 0
③	専科教員との連携が取れているか。	3. 8

### 3. 教育について

#### ① 特色ある教育

##### (ア) 宗教教育

全校生毎週 1 時間の宗教の時間や、週 1 回（金）の礼拝朝礼、毎日の朝礼終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」「創立記念ミサ」「クリスマス会」「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

##### (イ) 外国語（英語）教育

2018年度は、1, 2年生は週に3.5時間、3～6年生は週に3時間英語の授業を行った。1.5時間（3～6年生は1時間）は音声学に基づいた発音などを中心とし、2時間はネイティブスピーカーによるコミュニケーションを中心とする指導を行った。

##### (ウ) 福祉教育

毎年5年生が訪問している老人ホーム（大池サンホーム）を今年度も訪問した。訪問までの数カ月間に、車いす体験の実施や、お年寄りに喜んでもらえる出しものや、手作りプレゼントなどを用意した。訪問当日は車いすを押したり、お年寄りの手を取って、一緒に出しもの会場までお連れしたり、練習してきた出しものを見ていただいたりして、充実した一日を過ごすことができた。1年に1度の訪問であるため、お年寄りの方々も、とても楽しみにしてくださるとのことである。

##### (エ) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間25時間実施した。

・ 1年生歓迎会	1時間
・ 春の遠足（須磨海浜水族園）	6時間
・ 小運動会	4時間
・ 風鈴づくり	2時間
・ 野外活動	6時間
・ 校外清掃	2時間
・ 海星祭り	2時間
・ 6年生とのお別れ会	1時間

②今年度の取り組み

(ア) 保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくと同時に、保護者同士のつながりを深めることを目的に、定期的な保護者会（4月と7月）以外にも、12月に学年保護者会、3月に学級保護者会を行った。

(イ) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、毎週火曜日の放課後、学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し合った。

(ウ) 1月に3日間、参観週間を設け、保護者の方に自由に授業参観をしていただいた。参観週間と合わせて、小学校校舎内で図工展を行った。明るく広い場所で展示ができ、見やすく見ごたえがあると、保護者や受験を考えている方々、児童からも好評であった。

(エ) 今年度は、漢字検定で「優秀団体賞」を受賞した。

(オ) 4月にカナダオンタリオ州の私立女子校との交流プログラムとして、5年生の希望者12名がホームステイし、カナダの学校生活を1週間体験した。異文化理解や英語教育実践の場として生かしている。6月には、ホームステイ先のカナダ生が2日間来校し、全校児童との交流の時間をもった。

(カ) 8月には、6年生の希望者8名が参加して、ニュージーランド語学研修を行った。現地の家庭にホームステイし、小学校の授業に参加し、バディの友達と一緒に学習した。

(キ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	泊数
2	学校合宿	小学校校舎	家を離れての共同生活、布引の滝、学校のプール	1泊2日
3	校外合宿	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	1泊2日
4	淡路島合宿	国立淡路青少年交流の家	砂浜での活動・集団生活 規律を守る・仲間づくり	2泊3日
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	3泊4日
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島民泊（異文化体験） 平和学習・沖縄の歴史	3泊4日

#### (4) 神戸海星女子学院マリア幼稚園

##### 1. 園児数の状況について

2018年4月1日の園児数は年長児91名、年中児97名、年少児93名満3歳児0名であった。合計281名でスタートした。2019年3月1日現在の園児数は、年長児90名、年中児95名、年少児89名、満3歳児42名の計316名である。今年度中の退園者は14名、編入者は11名である。

##### 2. 幼稚園の関係する社会情勢について

###### ① 少子高齢化

少子高齢化が進む。西宮も北部地区、西宮浜、鳴尾地区等少子化が深刻になってきている。

###### ② 女性の社会進出

政府が育児休業した労働者の円滑な職場復帰の支援をし、女性が働き続ける社会を目指したため待機児童の解消や育児休業の延長等をすすめた。そのため女性が結婚、出産しても働きやすい社会になってきた。

###### ③ 幼稚園教諭人材不足

女性が就労しやすい社会になってきたため保育所入所希望が多い。保育所やこども園が増え長時間保育の施設が増えた。そのため幼稚園教諭、保育士不足が深刻になっている。

###### ④ 幼児教育無償化

2019年10月から所得に高低にかかわらず幼児教育・保育の無償化を全面的に実施することが決定した。幼稚園や保育所に通う3~5歳すべての子どもと、保育所に通う0~2歳の住民税非課税世帯の子どもについて利用料を無償化となる。マリア幼稚園の場合、保育料月額34000円のうち25700円まで無償、就労者は預かり保育の月極保育料14000円のうち月額11300円が無償化される。

##### 3. 幼稚園の教育活動

###### ① 行事

###### (ア) 入園の日

幼稚園生活の第一歩となるこの日は子どもの負担とならないように「式」の形はとらない。4月6日(金)記念撮影を新入園児11名担任2名各クラス保育室で撮ることにした。その後、子どもたちに身支度の仕方や教具の使い方などを伝える。保護者はホールで「在

園のしおり」を読み幼稚園のルールを伝える。教職員を紹介し、最後に子どもたちが舞台に担任と登場してお祝いをした。

(イ) 親子遠足

縦割り保育で3年間クラス替えがないので保護者同志の関係も大切となる。4月27日(金)新西宮ヨットハーバーで新入園児を迎えて親子でダンスをして親睦を図った。

(ウ) キャンプ (年長児のみ)

7月12日~13日神戸市立六甲自然の家に1泊2日の予定であったが、6月28日から7月8日まで降り続いた西日本豪雨のため、安全を考えて幼稚園でのお泊り保育とした。プログラムを全面的に変更した。大阪のキッズプラザでいろんな遊びを体験し、幼稚園に戻り、プール、スイカ割、水鉄砲、キャンプファイヤー、花火、夜のスタンプラリー、そして翌日サッカー大会、フルーツポンチづくりをした。子どもたちは十分楽しむことができた。親元を離れることが不安な子どもは安心して参加できた。また発熱した子どもも翌日にまた参加できメリットも多いことが分かった。教員にとっても子どもにとっても安心してのびのびと過ごせた。

(エ) 夏季アフタークラス

7月末まで希望者に夏季保育を行う。9~15時 延長 17時まで 400円  
7月23日~26日 4日間 12000円  
7月27日~31日 3日間 9000円

(オ) 参観日

2学期、3学期に子どもの様子を見ていただく機会を設けた。

(カ) スポーツデー

10月13日(土)に幼稚園で行った。幼稚園は本校のグラウンドほど広くないため、以前の保護者自由参加型ではなく、一斉学年競技の一般的なスポーツデーとした。

(キ) クラス遠足

2学期に1回3学期に1回、ペアクラスで2台のバスを使って園外保育に出かけた。  
動物王国、王子動物園、神戸青少年科学館、等。

(ク) 七五三

子どもの成長を祝い感謝する。11月8日夙川教会で神父様に一人ずつ祝福していただき千歳飴をいただいた。

(ケ) 聖劇

12月4日~7日、一日2クラスずつ、クラス毎にイエス様の降誕劇をし、クリスマスの喜びをご家族と一緒に分かち合う。年長児を中心にクラスが一つになって取り組むことができた。

(コ) クリスマスマ言葉の祭儀

12月22日(土)夙川教会で、希望されるご家族の方と一緒にクリスマスのお祝いをした。前年度は親子一緒に座席にしたが、保護者と一緒になると私語が多くて落ち着かなかった。今回は子どもと大人を分けてパイプ椅子も用意して座った。とても静かに与ることが出来た。子ども 215名 大人 250名参加。

(サ) おもちつき

1月18日(金)幼稚園園庭で年長児の保護者に手伝って頂きながら行った。

(シ) 卒園の日

3月21日(祝)に行く。例年証書授与はフロアで行っていたが、両親の参加が多かった。フロアは親子席で満席になる。そのため授与を壇上です。祖父母は参加できない。90名卒園。21の小学校へ進学した。

② 2歳児クラスの充実

週2回クラスを週2回(月・木)コース15000円と週3回(火・水・金)コース22000円を設けた。入会金を15000円から24000円にした。

③ キンダーカウンセラーの導入

臨床心理の先生に年12回来ていただいて、発達の遅い子どもや保育しづらい子どもに対する援助の仕方などを指導していただいた。保護者にも案内を出し、希望者は困っていることなどを相談することが出来た。

④ 研究発表

兵庫県私立幼稚園協会地区別教員研究発表会で教員が発表をする。2018年度より給食を始めて試行錯誤で取り組んだことを発表した。テーマは「子どもの自立を育む給食～食事における環境づくりを通して～」ビュッフェスタイルの給食を紹介した。子どもが主体となる給食を考え、自ら配膳することで「食べることは楽しい」という子どもたちの様子を伝えた。

⑤ 月刊絵本の購入

ご家庭で親子の時間を大切にするため福音館の絵本を毎月購入した。月額400円



#### 4. 募集活動

##### ① 「幼稚園で遊ぼう」と幼稚園見学会

一般募集のために 9 月に 2 歳児 3 歳児対象にリトミック「幼稚園で遊ぼう」を 4 回行う。  
そのあと普段の保育の見学会。

##### ② ホームページをリニューアル

新園舎の施設紹介や子どもたちの様子を紹介した。募集告知。保護者への連絡事項。

##### ③ 説明会

対象を 3 歳児入園と満 3 歳児入園の希望者とし、ホームページで申し込みを受ける。  
園の方針の説明と園舎と子どもたちの様子を見ていただく見学会をした。

・ 9 月 10 日 台風のため在園生は休園となる。説明会は時間を変更し午後から行った。

112 名

・ 9 月 21 日 136 名参加

##### ④ 入園考査

10 月 1 日行う。例年保育後にしてしたが、考査後の検定に時間がかかるので今年度は  
在園生を休園とした。考査も以前は園長がしていたが、今回は 4 グループに分けて教員た  
ちで行った。同時に満 3 歳児入園（4 月～6 月生まれ）の考査も行うことが出来た。（7～9  
月生まれ）と弟妹の考査は 3 月 27 日に考査した。

##### ⑤ 募集結果

・ 3 歳児入園（2015. 4.2 生まれ～2016. 4.1 生まれ）

応募 85 名 合格 25 名 不合格 48 名（面接前辞退 12 名 合格後辞退 5 名）

・ 満 3 歳児入園（2016. 4.2 生まれ～2016. 9.30 生まれ）

応募 64 名 合格 37 名 不合格 27 名

・ 2 歳児クラス（2016. 10. 1 生まれ～2017. 4. 1 生まれ）

応募 40 名 合格 25 名 不合格 15 名

(5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額
神戸市灘区	大学本館	6,559 m <sup>2</sup>	609,423 千円	65,980 千円
	大学 2 号館	2,149 m <sup>2</sup>	436,876 千円	41,565 千円
	大学図書館	4,047 m <sup>2</sup>	1,464,473 千円	607,491 千円
	中高校舎、講堂	10,627 m <sup>2</sup>	2,994,570 千円	1,647,301 千円
	中高食堂 <sup>ロッカー棟</sup>	659. m <sup>2</sup>	407,947 千円	407,947 千円
	体育館	1,675 m <sup>2</sup>	108,385 千円	16,055 千円
	小学校校舎	3,316 m <sup>2</sup>	453,439 千円	193,149 千円
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m <sup>2</sup>	754,914 千円	684,263 千円

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

イ) 中高 旧ロッカー棟の解体処分 (2018 年 6 月 14 日済)

鉄筋コンクリート造地下 1 階建 356.07 m<sup>2</sup>

ロ) 中高 食堂・ロッカー棟の新築 (2019 年 3 月 22 日済)

鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき地下 1 階付平屋建  
(1 階) 292.67 m<sup>2</sup> (地下 1 階) 366.50 m<sup>2</sup>

ハ) 御影土地建物の売却処分 (2018 年 8 月 31 日済)

土地 (1) 所 在 神戸市東灘区御影二丁目 3 1 8 番 5

地 籍 319.08 m<sup>2</sup>

(2) 所 在 神戸市東灘区御影二丁目 3 1 8 番 6

地 籍 1046.96 m<sup>2</sup>

建物 (1) 構 造 木造瓦葺 2 階建

床 面 積 1 階 92.72 m<sup>2</sup> 2 階 27.66 m<sup>2</sup>

(2) 構 造 軽量鉄骨造スレート葺 2 階建

床 面 積 1 階 105.58 m<sup>2</sup> 2 階 53.41 m<sup>2</sup>